



2006年12月19日(火)“大山詣で”で有名な大山に登りました。登る予定だったのですが、“年末の慌ただしい時期に無理をして寝込んでしまったし”“ここはひとつのんびり行こう”と、山頂へは行きませんでした。小田急線伊勢原駅からバスで大山ケーブル駅、大山ケーブルカーで下社まで移動して山頂をカットすれば怖い物無し！下社の茶屋でちょいと一杯ひっかけて出発です。せっかくだから下社ぐらいは拝まないとネ。あとはのんびり下るだけのハイキングです。

大山といえば、1996年9月蓑毛から登り、不動尻へ下りて広沢寺温泉に入って帰ったことがあります。険しい山頂へ元気に登り、下りは走っていました。いや、恐ろしい！

途中の見晴台でお弁当を食べながら大山山頂を眺め、すっかり登った気分になり、日向薬師に着いてみればそれなりに満足感がありました。

お酒と同じであまり強すぎるよりは、適度に飲んで酔えるほうがいいのかも…。



長かった5ヶ月

前回の「鎌倉ウォーク 天園ハイキング」の直前に桜井利子さんが体調を崩して入院しました。その後、病名は膵臓癌ということがわかりました。自宅で抗癌剤治療を行っていたのですが、12月の初めに再び入院したということ。加藤さんから「大山の帰りにでもお見舞いに行きませんか？」と連絡があり、それでもいいかなと考えていました。

12月19日（火）8時30分の小田急線町田駅は、まさに通勤ラッシュ。でも、切符を買う自動販売機の周辺には人が少なく、どんどん改札口に吸い込まれて行きます。そして、電車で向かうのは空いている下り線ですから問題はなさそうです。WTR CLUB 始まって以来の平日企画となりました。というのは、6月より失業中だった町田が11月10日より「カジノヤ」という納豆工場で働き始め、休みが4勤1休、つまり、土日祝日に関係なく5日毎になったためなのです。しばらくの間、何曜日に行くか不定期になりますが、様子を見るということでご勘弁下さい。もちろん、常に平日ということでもありませんから。

そんな中、小野さん、加藤さん、宮部夫妻、板垣さん、佐藤さん、向山さん、町田の8名が集まりました。加藤さんの奥さんは、仕事のため（すみません）参加できませんでした。小野さんと宮部夫妻と向山さんは、7月の「鎌倉ウォーク 裏大仏」以来、久しぶりの参加となりました。5ヶ月ぶりということ。5ヶ月といえば町田の失業期間と同じ、長かったなあ…。こう

なると、大山の山頂への険しい道はつらいかもしれませんが。暖かい季節ならともかく筋肉が硬く縮こまっている12月、しかも間もなく冬至で日も短い。

桜井さん、頑張れ！

小田急線に乗って伊勢原駅で降り、バス停でバスを待つ間、加藤さんが「ハイキングのあと桜井さんのお見舞いに行きませんか？」と提案しますが、宮部さんの奥さんは「ハイキングあとに行くのは失礼だし、桜井さんがかわいそう」と反対しました。まあ、確かに加藤さんと町田以外の方は、そんな話聞いていないわけで、その準備も心づもりもないのですから、やはり、日を改めてというほうがよさそうです。年末年始の慌ただしさから開放されて落ち着いてからにしましょう。

ケーブルカーで下社、しかも山頂パス

バスに揺られて約25分、終点の大山ケーブル駅で降りますが、ケーブル駅が目前にあるわけではなく、昔からの観光地らしい土産物屋の並ぶ通りをしばらく歩くことになります。大山の表参道はまさに階段の道で、この土産物屋通りから階段は始まっています。平日の朝で開店したばかりのせいでしょうか、どこも活気がなく商売気が感じられませんが、寂れてもいません。「大山は、豆腐と独楽で有名なんでしょ。ちょっと声かけてよ」と言いたくなるくらい静か。大山ケーブルカーのおいわけ駅までの15分の階段も応えるのですが、この階段は、下社まで約45分間延々と続きます。もちろん私たちは、ケーブルカーを利用いたし





ます。たった6分でしもしゃ駅に到着しました。ここからの眺めも素晴らしく、霞んではいますが、江ノ島も確認でき、海は、太陽を反射して輝いていました。

下社に続く鳥居の前のお茶屋で町田は、おにぎりを購入しながら、みんなに山頂へは行かず、日向薬師へのハイキングにしますと発表すると、“その気で来たのにちょっとガッカリ”なのか“いや助かった”なのか？宮部(夫)さんは、お茶屋で缶酎ハイを買って飲み始めました。

加藤さんが飲まなかったのは不思議。すると、ジャージ姿の高校生がぞろぞろと階段を登って現れました。地元の高校生が、大山のゴミ拾いに来たのでした。ご苦労様！お茶屋のおばさんに日向薬師への道を確認して、その方向へ向かうとすると「下社に寄ってから行けばいい」と言われ、それもそうだと鳥居をくぐって階段を上りました。



憧れの大山山頂？

山の中腹にあるとは思えないほど広々とした境内からの眺めもなかなかです。山頂からの眺めはさぞ素晴らしいことでしょう。せっくなので、山頂への入口を見に行くと、狭い急な階段で始まっていました。その気のあるうちに一歩上り出せばいいやでも上っていくのかもしれませんが、やっぱり今日はやめときま



す。階段を降りて茶屋の脇からハイキングコースに侵入しました。10時50分でした。

ようやく踏み出した土の道、“ああ、これこれこの感触”となんだかウキウキしてきます。「二重滝までは下りで見晴台まで上り、あとは下るだけ」とお茶屋のおばさんが言っていました。歩き始めて5分ほどで二重滝を通過しました。これが滝？

という程度のもので沢の水が上から下へ落ちているだけ。二重滝を越えると確かに上りが始まりましたが、急勾配ではなく平らな部分も多いため苦しくはありません。右側に下社を見下ろし、“それでもこれだけ登ったんだ”と高さを確認して間もなくテ



ブルとベンチが並び広場に出ました。ここが見晴台です。11時25分、歩き出してわずか30分でしたが、ここで昼食を取ることにしました。登る予定だった大山の山頂が遠く大きく見ることができます。西武秩父駅の仲見世から武甲山を眺めながら一杯やった時のように、今度は大山山頂に登ろうと思いながら食事をしました。しばらくすると、下社のお茶屋の前で出会った高校の別の集団がやってきました。彼らもここで昼食です。12時15分、のんびり過ごした私たちは記念撮影をして出発します。





下りとトイレの関数

正面に伊勢原市と厚木市の街を見下ろし、その奥に輝く海を見ながら歩きます。山頂からの下りではないので、傾斜が緩やかな心地よい尾根道の下りです。20分ほどすると、大きな等身大のお地蔵さんが立っている分岐を左へ。尾根道と分かれ、“九十九曲”と名付けられた坂道。その名の通りジグザグに山の斜面をぐんぐんと下りていくのですが、危険を感じる勾配ではありません。が、それに油断したのか、久しぶりの山道だからか小野さんが転倒！バランスを崩しお尻と背中を着地。背中のリュックがクッションとなり、無事でした。お地蔵さんから約30分、舗装路に出ました。昼食後探していたトイレをようやく発見！今回のように寒い日で汗をかかない山歩きだとトイレが近くなってしまいます。富士山の五合目から下るハイキングの時もそうでした。男性はともかく女性は苦労しますよね。



日向薬師ってスゴイ！

なんだこれで終わりかと思ったら、この林道は横切るだけで続きがありました。乾いた枯葉で埋もれた道を慎重に下ると、やがて県立伊勢原青年の家に到着し山道は終了。車道歩きとなりましたが、日向薬師バス停までは40分かかります。舗装路の下り坂は、山道に比べ辛いのですが、ここは平坦でなかなか田舎道。午後の日ざしのを浴びてのんびりと歩きます。間もなくバス停というところで日向薬師への分岐があり、せっかくなので立ち寄ることにしました。



日向薬師は、古びた立派なお寺でした。それもそのはず、元正天皇(716年)の頃、僧行基が開創したといわれる日本三大薬師(他は、土佐の柴折薬師と越後の米山薬師)の一つで、平安から鎌倉期の仏像が23体もある神奈川県唯一の仏像の宝庫です。鎌倉期には、将軍源頼朝・政子が数回参詣しています。参道の途中に“いしば(衣装場)”と呼ばれる場所があり、ここは、頼朝公が旅装を脱ぎ白装束に衣装を着替えたそうです。すなわち、「妙法ヶ岳ハイキング」に行った時、秩父三峯神社の鳥居の前で白装束に着替えている人を見かけたことを思い出しました。

日向薬師を後にして、表参道の階段を下るとすぐにバス停がありました。脇に小さなお店がありお酒が売っていました。バスを待つ間一杯ひっかけることに。こんな時は日本酒がいいね。



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577-ホ-22-101 042-793-1271
佐藤忠夫	192-0364	東京都八王子市南大沢 2-12-3 0426-76-6246
向山三郎	194-0204	東京都町田市小山田桜台 1-735-2 042-797-4329

